

2025 年 10 月 14 日

百年未来への歴史 **運動会と共同体「運動会 変わる時代の映し鏡」**を読んで

林 但

13 日はスポーツの日。この日は横須賀市の「スポーツフェスタの日」、市内全域で色々な取り組みを行う。朝起きて新聞を読もうとしたら、朝日新聞の 1 面～2 面に大々的の表記の掲載があった。運動会が始まって、百年以上が経つ。そのかたちは、時代や人々のニーズに応じて変化し、社会を映しだしてきました。学校だけでなく企業、地域にも広がり、今も共同体の結びつきを強める役割を果たしています。読んで感じたこと他を以下に記載致します。

在住の地域の小学校も中学校も昨今は半日型で運動会は行われている。中学校は校長先生の考えもあって地域の高齢の方や関係団体の方にも案内が出され多くの方の観戦もあり中学生は真剣に取り組んでいる。私たちスポーツ推進委員も時間やり繰りをして何名かが伺い、他の地域団体ともコミュニケーションを取っている。自分の子供のころとは大きく様変わりしているがやむを得ないと考えている。

企業では高度成長期に社員の福利厚生の一環で始まった。私が勤務していた事業所も東京から横浜の地に移転してから 10 年くらい行っていた。職場の団結のため、昼休み・終業後などにみんなでいろいろ議論したこと、選手選考会も行った。その後異動した研修センターでは 4 月に全社新入社員研修の一環で連携や組織の一体感醸成のため 1500 名から多い時には 2000 名で体育館を借り切って行った。本当に効果はあると思った。

横須賀では私たちスポーツ推進委員・体育振興会が町内会をはじめ地域の関連団体と連携を取りながら健民運動会などを行っている学区が 25 くらいある。地域によってはウオーキングなどに変更のところもある。私の学区では 10 年以上前から体力勝負にならない種目に切り替え、毎年みんなで協議しながら進めているが、急激な少子高齢化の波がある。学校が地域の拠点として見直しがされ、学校運営協議会を上手に機能させながら行っている学区もあればそうでない学区もある。今回で 67 回であるが蓄積してきた資源として、地域と学校をつなげる重要なツールであるが、＜働き方改革＞を前面に出される場合もあって苦慮し模索しながら取り組んでいる。



大人気のパン食い競争



児童の障害物競走



昼休みは小学生作詞の
「武においでよ」をみんなで合唱